

【河村 昇先生抄録】

演題『補綴治療を成功に導くために必要なデジタル技術』

補綴装置を口腔内で長期的に維持・安定させるためには、口腔の機能に調和し、壊れない強度で口腔内に適合し維持する補綴装置の製作が必要となります。今までは印象採得や咬合採得、咬合器装着や補綴装置の製作など、術者の経験、知識、技能などにより適合や咬合の精度が変化していました。また天然歯の色調再現についても同様で、測色機やデジタルカメラの画像情報から、シェードマッチングするなど経験や技術力に大きく左右されます。しかし、デジタル技術は、アナログとは少し異なり技工経験の浅い若手歯科技工士でもデジタルを用いてジルコニアクラウンやCAD/CAM冠、義歯の製作が可能です。本学でも4月から研修生（歯科技工士国家試験を取得した卒業後研修生）の実習に取り入れています。スマートフォンやパソコンに普段から触れてきた学生はすぐに65点をとるレベルの補綴装置の製作が可能です。そこに臨床で必要なノウハウを教育することで、時代にあった歯科技工士の育成をしています。デジタル技術は、従来法に比べ、より高精度で高品質な補綴装置の製作に欠かすことの出来ない技術となっています。今回デジタル機器として、IOS（Intraoral Scanner）やCAD/CAMをどのように補綴装置に生かしているか、臨床技工のノウハウを交え紹介いたします。第1部では臨床技工に用いられるデジタル技術と、口腔内で咬合調整量を少なくするための術式について紹介し、第2部では義歯を中心に本学で作られる義歯の形についてお話しいたします。